

インタビュー

陶芸家、間由加里さん

小柳美千世



くるっとした瞳と機敏な動作、芯の強さと周囲への気遣い、私が間由加里さんから受ける印象だ。そんな彼女の作り出す陶芸作品には、優しい色艶の中に力強いメッセージが込められている。

毎年、参加している「Salon des Métiers d'art du Québec」や「1001 Pots/Val-David」で高い評価を得ているのはもちろんのこと、さらにここ1、2年「CeraMystic」、「Japonica/Japanese artists group show」、solo show「Amaterasu(Saint John, NB)」、「Cornwall ceramic show(Cornwall, ON)」等、着実にその活動の場を広げている。

— 出身地は？ カナダに来た切っ掛けは？

岡山県井原市に生まれました。実家は八百屋を営んでいます。三人姉妹の真ん中で、どちらかというと性格は男勝りによく言われます。父は私には「好きなことはとことんやれ」とよく言ってくれました。

カナダに来たのは28歳のときです。小さい頃から外国で暮らしてみたいという憧れが強く、大学は関西外語大学短期大学英米語学科に進みました。その後、日本の企業で働きだしたものの、どんなに頑張っても超えられない男女格差や女性の地位の低さに疑問を感じ、英語を徹底的に勉強しようと決心して、ニューブランズウィック大学英語習得プログラムに応募しました。1年間、英語漬けの生活を送った後、もっと広い視野で英語を学ぼうと、その頃はまだ趣味のひとつでしかなかった陶芸でもやりながら……という軽い気持ちで **New Brunswick College of Craft and Design** (ニューブランズウィック工芸・デザインカレッジ) に入学しました。面白いもので、この学校は入学願書をなかなか受け付けて貰えないところだったのですが、私の場合は電話で事情を説明したらその場でOKを貰うことができるとも運が良かった、これも何かの縁ですね。

— 作品を作るにあたって、何かの影響を受けたりしますか？

今の時代、独創的なものを作るのは難しいと思います。私自身も、たとえば荒川豊蔵が好きだったり、実用的な器が好きだったり、そこからなんらかの影響を受けています。最初は誰かの真似だとしても、私という人間を通すことによって、そこに私しかできないオリジナリティが生まれるんじゃないかなと思っています。ある意味、陶芸って怖いんですよね、自分がそのまま出ますから。作品によく赤を使うのは、使ってくれる方に「暖かさ」を感じて欲しいからです。最近のテーマとして“天照大神”を取り入れています、実はコンピュータ・ゲームの“大神”の絵が綺麗で、自分でも描いてみようと思いついたんです。以前から、日本の神話とか昔話とかのストーリー性に興味を持っていて、絵を描いたりするのも好きでした。私が器を作るのに大切にしていることは“愛”です。セクシャルな愛、或者说、母性愛を感じさせるものですね。また、季節感を大切にしたいと思っています。自分としては、日本的な価値観にこだわることではないのですが、自分の中に自然に培

われたものとして、日本やアジアの自然や文化は切り離せないものです。

そして、夫でもあり画家でもあったフィリップ・アイバーソンからもたくさんの影響を受けることができました。

— フィリップさんとの出逢いも、間さんにとって大きな転機だったのでしょうか？

ニューブランズウィックにいたときのホストファミリーの息子さんだったんです。私は、友達がそこを出るので代わりに住むことになったのですが、彼もそのときちょうどモントリオールから帰って来ていて偶然のような、必然のような……、出逢いしました。彼の描く絵はとっても自由な発想で、例えば、絵の具の代わりにケチャップを使ってみたりと、スタイルにこだわらないで自分の思いを形にし、「カオスの中にもある真の美しさ」、それと向き合うことを教えてくれました。

2006年に彼が亡くなってからしばらくの間、自分が生きていく方向を見失っていた時期もありましたが、ここにいるからこそ出来ることってあるんじゃないか？こびりせずに自分のスタイルを大切にしよう、と思うようになったら、肩の力が抜けました。特に昨年は、これじゃいけないと奮起して意識的にいろいろなことに挑戦するようにしました。作品も、地元受けしやすいバターディッシュとかオイルボトルなどを取り入れながらも、形はオリジナリティを生かして、自分のスタイルの幅を広げていくようにしています。陶芸をするようになってから、『どんな結果になろうとも、受け入れる』という人生観を持つようにもなりました。ひとつひとつの作品には、全ての気持ちを入れ込みます。ですが、焼くときに失敗したり、割れたり、必ずしも思い通りにいくとは限りません。毎回、祈るような気持ちで作品を仕上げていきます。だから、思いが叶ったときは全てのことに感謝する気持ちでいっぱいです。その繰り返しですね。“ああよかった”と思える瞬間があるので、こうやって陶芸を続けていけるのだと思います。



— 常時、作品が買えるところは？

モントリオールでは、スタジオに来て頂ければいつでもご覧いただけます。スタジオ: 7245 rue Alexandra, suite 110  
他には **Canadian Guild of Crafts**, 1460, rue Sherbrooke Ouest, Suite B, 514.849.6091 Fax 514.849.7351  
[www.guildecanadiennesdesmetiersdart.com](http://www.guildecanadiennesdesmetiersdart.com)  
[www.canadianguildofcrafts.com](http://www.canadianguildofcrafts.com)

— これからの目標、または夢は？

世界中の国々に行って、いろんなものに感化されたいですね。2012年には中国への旅の企画もあって楽しみです。これからも、使って貰える陶芸を作り続けていきたいと思っています。

[www.togepotteryhazama.com](http://www.togepotteryhazama.com)

